

kikusui

TECHNICAL DATA

仕上りの種類	建築用塗膜防水材 (外壁用塗膜防水材 アクリルゴム系)
製品名	透湿弾性タイル・RE 凹凸状凸部処理 (吹付け工法)

プライマー：カチオン形アクリル樹脂エマルジョン系下塗材
(水系クリヤータイプ)

「キクスイ 浸透性プライマーE」

仕上塗料：水系弾性アクリル樹脂塗料

「透湿弾性・RE トップ」

第4版 作成日：2022年8月1日



菊水化学工業株式会社

公共建築改修工事施工仕様書

1. 仕上げの種類

建築用塗膜防水材（外壁用塗膜防水材 アクリルゴム系）

2. 製品名

透湿弾性タイル・RE（凹凸状凸部処理）

仕上塗料：水系弾性アクリル樹脂塗料「透湿弾性・REトップ」

3. 適用範囲

既存の仕上塗材塗り仕上げ等を改修する場合及びコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁、押出成形セメント板外壁、ALCパネル外壁等に外壁用塗膜防水材塗りを行う場合に適用する。

4. 材料

プライマー：キクスイ 浸透性プライマーE	NET	15kg/缶入
アクリルゴム系塗膜防水材：透湿弾性タイル・RE ベース	[主材]	NET 18kg/缶入
	[硬化剤]	NET 0.15kg/缶入
模様材：透湿弾性タイル・RE 模様	[主材]	NET 18kg/缶入
	[硬化剤]	NET 0.15kg/缶入
仕上塗料：透湿弾性・REトップ	NET	16kg/缶入

5. 下地

5.1 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」令和4年版第4章 外壁改修工事の4.7.4既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整に準ずる。詳細は以下の通り。

(1) 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、上記「公共建築改修工事標準仕様書」

4.5.4の(1)から(6)までによる。

(2) モルタル下地の仕上げは、金ごてとする。

(3) ALCパネルの場合は、4.5.4(8)による。

(4) 押出成形セメント板の場合は、4.5.4(9)による。

5.2 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル仕上げ外壁等の下地調整

既存のコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に外壁用塗膜防水材塗りを行う場合の下地調整は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」令和4年版第4章 外壁改修工事の4.7.5既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル仕上げ外壁等の下地調整に準ずる。詳細は以下の通り。

(7) コンクリート面の下地調整は、次による。

- (a) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。
- (b) 下地面の清掃を行う。
- (c) 下地調整塗材C-2を、1～2mm程度全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、スラブ下等の見上げ面及び厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。
- (d) 下地の不陸調整厚さが1mm以下の場合は、(c)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材C-1を平滑に塗付けることができる。
- (e) 下地の不陸調整厚さが3mmを超えて10mm以下の場合は、(c)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材CM-2を平滑に塗付ける。

(イ) モルタル及びプレキャストコンクリート面の下地調整は、次による。

- (a) 下地面の清掃を行う。
- (b) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、仕上塗材の下塗材で代用する場合は、省略することができる。

(ウ) ALCパネル面の下地調整は、次による。

- (a) 下地面の清掃を行う。
- (b) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、下地調整塗材Eで代用する場合は、省略することができる。
- (c) 仕上塗材の製造所の仕様により下地調整塗材C-1又は下地調整塗材Eを全面に塗り付けて、平滑にする。

(イ) 押出成形セメント板面の下地調整は、次による。

- (a) 下地面の清掃を行う。
- (b) 日本建築学会材料規格JASS 18 M-201 [反応形合成樹脂シーラーおよび弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー] に基づく塗料を全面に塗り付ける。
なお、仕上塗材の製造所の仕様により、下塗材をJASS 18 M-201に基づく塗料で、代用することができる。

表 下地調整に使用する下地調整塗材及びシーラー

下地	下地調整材及びシーラー	菊水化学工業(株)該当製品名	備考
コンクリート	下地調整塗材 C-1	キクスイ フィラー キクスイ フィラー 1材型 キクスイ カチオンフィラー吹付用 カチオンRF JSプレミックス10 JSプレミックスカチオン100RF	下地調整塗材を塗付後に、仕上塗材の下塗材を必ず塗布すること
	下地調整塗材 C-2	BR#15 BR-Dコテ カチコテSP カチオンRF JSプレミックスカチオン100 JSプレミックスカチオン100RF	同上
	下地調整塗材 CM-2	BR-CM JSプレミックス20 JSプレミックス30 JSプレミックス60H	同上
モルタル、プラスター	仕上塗材の下塗材で代用	キクスイ プライマー スーパーE キクスイ プライマー スーパーWE	仕上塗材の下塗材省略可
プレキャストコンクリート	仕上塗材の下塗材で代用	キクスイ プライマー EPW キクスイ SP パワーシーラー	仕上塗材の下塗材省略可
せっこうボード、 その他ボード	合成樹脂エマルジョンシーラー	キクスイ プライマー スーパーE キクスイ プライマー スーパーWE	—
ALCパネル	合成樹脂エマルジョンシーラー	キクスイ プライマー スーパーE キクスイ プライマー スーパーWE	下地調整塗材Eで代用する場合は省略可
	下地調整塗材 C-1	キクスイ フィラー キクスイ フィラー 1材型 キクスイ カチオンフィラー吹付用 カチオンRF JSプレミックス10 JSプレミックスカチオン100RF	下地調整塗材を塗付後に、仕上塗材の下塗材を必ず塗布すること
	下地調整塗材 E	キクスイ ファンデ	—
押出成形セメント板	反応形合成樹脂シーラーおよび 弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー	キクスイ プライマー EPW キクスイ SP パワーシーラー	仕上塗材の下塗材省略可

6. 工程

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間(h) (23°C 50%RH)	所要量 (kg/m ²)
プライマー	キクスイ 浸透性プライマーE 主材：15kg 無希釈	はけ・ウールローラー エアレススプレー 等	1	3以上	0.1以上
増塗材	透湿弾性タイル・RE ベース 主材：18kg 硬化剤：0.15kg 清水：0.3～1.0L	はけ等	1	3以上	0.5～1.0
アクリルゴム系 塗膜防水材	透湿弾性タイル・RE ベース 主材：18kg 硬化剤：0.15kg 清水：0.3～1.0L	リシンガン 口径：5～6mm 吹圧：0.5～0.6MPa	2 (注)1	3以上 工程内 16以上	1.9以上 (注)2
模様材	透湿弾性タイル・RE 模様 主材：18kg 硬化剤：0.15kg 清水：0～0.4L	タイルガン 口径：6～8mm 吹圧：0.2～0.3MPa	1	18以上 凸部処理 1以内 (注)3	0.7以上
凸部処理 ^{(注)3}	プラスチックローラーに塗料用シンナーをつけて均一に押える。			18以上	-
仕上塗料	透湿弾性・RE トップ 主材：16kg 清水：0.8～1.6L	はけ・ウールローラー エアレススプレー 等	2	工程内 3以上	0.25以上

注1 塗り回数は、製造所の指定に準じる事が規定。

注2 アクリルゴム系塗膜防水材の所要量は、所定の塗膜厚を確保するように換算したもの。

注3 凸部処理は、凸部処理状模様の場合のみに行う。

7. 工法

7.1 材料の練混ぜ

- (1) プライマーは、希釈せずハンドミキサーで均一にする。
- (2) アクリル系塗膜防水材及び模様材は、主材と硬化剤を定められた比率で混合し、ハンドミキサーなどで均一にする。その後、定められた模様に対する所定の粘度に調整するよう指定量の清水を加え、均一に薄める。また、混練後の可使用時間は8時間(20°C)なので、時間内に使い切ることを。
- (3) 外壁用仕上塗料は、指定量の清水を加え、ハンドミキサーで均一に薄める。

7.2 プライマー

- (1) プライマーは、だれ及び塗残しのないように均一に塗り付ける。

7.3 増塗材

- (1) 増塗材は、はけ又はローラーにより、防水材塗りに先立ち、あらかじめ0.5～1.0kg/m²を端部に段差のないように塗り付ける。なお、増塗りを行う部位は、出隅、入隅、目地部等の膜厚が薄くなりやすい部位、開口部回り等のひび割れが発生し易い部位、下地の動きが激しい部位等とする。

7.4 アクリルゴム系塗膜防水材

- (1) アクリルゴム系塗膜防水材は、所定の厚みが確保できるように、2回塗りとし、だれ、ピンホール及び塗残しのないよう下地を覆うように塗り付ける。

7.5 模様材

- (1) 模様材塗りは、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、指定する塗装条件を用いて塗り付ける。

7.6 凸部処理

- (1) 凸部処理は、見本と同様の模様になるように模様吹き後、1時間以内の適当なときを選んで行う。

7.7 仕上塗料

- (1) 仕上塗料は、2回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に塗り付ける。

8. 材料の取り扱い

- (1) 施工者は、材料の受入れ検査を行う。
- (2) 材料の保管にあたっては、直射日光を避け低温時において凍結しないように注意する。
- (3) 材料は使用に先立ち、材料の分離などについて検査を行い、異常が認められた場合は使用してはならない。
- (4) 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS（安全データシート）を参照のこと。

9. 施工時の養生

- (1) 外装仕上げ面においては、塗り付け作業前に直射日光、風及び雨を防ぐためシート掛け養生を行う。特にパラペットと足場の間には雨が吹き込まないように覆いをかける。
- (2) 夏季に屋外で施工する場合は、急激な乾燥を防止するため、シート類、ポリエチレンフィルムなどで覆う。
- (3) 工事中は、周辺のほかの部材及び仕上げ面を汚損しないよう適切な養生を行う。

10. 施工時の気象条件

- (1) 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生ずることがあるので、施工を避ける。
- (2) 外部の施工で降雨、降雪の場合又はそのおそれのある場合及び強風時は施工を避ける。

11. その他の注意事項

- (1) 一般事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」令和4年版第4章 外壁改修工事の4.1.3 施工一般及び4.7.3 施工一般に準ずる。

- (2) 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないように注意する。
- (3) 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがある。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行うこと。

※本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにしてください。

成分表

プライマー：キクスイ 浸透性プライマーE

内容	重量 (%)
変性アクリル樹脂エマルジョン	100.0
計	100.0

アクリルゴム系

塗膜防水材：透湿弾性タイル・RE ベース

[主材]	内容	重量 (%)
	アクリルゴムエマルジョン	64.3
	白色及び体質顔料	32.7
	添加剤	3.0
	計	100.0

[硬化剤]	内容	重量 (%)
	エポキシ樹脂	100.0
	計	100.0

模様材：透湿弾性タイル・RE 模様

[主材]	内容	重量 (%)
	アクリルゴムエマルジョン	63.7
	白色及び体質顔料	32.3
	添加剤	4.0
	計	100.0

[硬化剤]	内容	重量 (%)
	エポキシ樹脂	100.0
	計	100.0

仕上塗料：透湿弾性・RE トップ

内容	重量 (%)
アクリル樹脂エマルジョン	61.2
白色顔料	16.9
水	9.1
添加剤	12.3
防藻・防カビ剤	0.5
着色顔料	適宜
計	100.0

性能試験成績書

仕上りの種類	建築用塗膜防水材 (外壁用塗膜防水材 アクリルゴム系)				
製品名	透湿弾性タイル・RE ベース				
供試材料	プライマー：キクスイ 浸透性プライマーE アクリルゴム系塗膜防水材：透湿弾性タイル・RE ベース				
試験方法	JIS A 6021-2016 外壁用塗膜防水材 アクリルゴム系に準拠				
試験項目		性能		結果	
引張性能	引張強さ (N/mm ²)	試験時温度 23℃	1.3 以上	2.6	
		試験時温度 -20℃	1.3 以上	6.7	
		試験時温度 60℃	0.40 以上	2.0	
	破断時の 伸び率 (%)	試験時温度 23℃	300 以上	550	
		破断時の つかみ間 の 伸び率 (%)	試験時温度 23℃	180 以上	357
			試験時温度 -20℃	70 以上	152
試験時温度 60℃			150 以上	275	
引裂性能	引裂強さ (N/mm)	6.0以上	14		
加熱伸縮性能	伸縮率 (%)	-1.0 以上1.0 以下	-0.7		
劣化処 理後 の 引張 性能	引張強さ 比 (%)	加熱処理	80 以上	133	
		促進暴露処理	80 以上	133	
		アルカリ処理	60 以上	103	
	破断時の 伸び率 (%)	加熱処理	200 以上	260	
		促進暴露処理	200 以上	250	
		アルカリ処理	200 以上	290	
伸び時の劣化性状	加熱処理	いずれの試験片にもひび割れ及び著しい変形 があつてはならない。	異常なし		
	促進暴露処理		異常なし		
	オゾン処理		異常なし		
付着性能	付着強さ (N/mm ²)	無処理	0.70以上	1.7	
		温冷繰返し処理	0.50以上	1.2	
耐疲労性能		いずれの試験体にも塗膜の穴あき・裂け・破断があつてはならない。	異常なし		
たれ抵抗性能	たれ長さ (mm)	いずれの試験体も 3.0 以下。	0.0		
	しわの発生	いずれの試験体にもあつてはならない。	異常なし		
固形分 (%)	主 材	表示値 (68) ±3.0	67.9		
	硬化剤	表示値 (58) ±3.0	60.0		
—以下余白—					

* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承下さい。